

希少 コウチュウ目 コメツキムシ科

ミヤマヒサゴコメツキ

Homotechnes motschulskyi (Fleutiaux)

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 c 孤立した分布特性を有する

【形態】 体長は7~13mm。体色は黒~黒褐色を呈し、やや強い光沢を持っている。前胸と上翅の間が多少ともくびれていて、後翅は退化している。地域ごとに色彩、形態が少しずつ異なるため、これまでに30以上の亜種に分けられている。

【分布】 本州、四国に分布しており、ブナ帯以上の石下から見つかっているが、いずれの産地でも個体数は少ない。

【県内の分布、生息状況】 イイデミヤマヒサゴコメツキssp. *babai*(飯豊山系)とヤミゾミヤマヒサゴコメツキssp. *yamizo*(棚倉町八溝山)、アイヅミヤマヒサゴコメツキssp. *aizu*(天栄村二岐山)の3亜種が県内から知られているが、これらとは異なる亜種になるとと思われる個体が、阿武隈高地からも見つかっている。

【主要文献】

岸井 尚(1989)On a New Subspecies of *Hypolithus motschulskyi* from Mt. Yamizo-san in Fukushima Prefecture. 昆虫学評論, 44(2): 99-100.

岸井 尚(1994)Notes on Elateridae from Japan and its adjacent Area(13). Bulletin of the Heian High School, (38): 1-35.

岸井 尚(1995)Notes on Elateridae from Japan and its adjacent Area(14). Bulletin of the Heian High School, (39): 1-40.

大桃定洋・久保田正秀・沼田稔・市毛勝義・疋田直之(1993)茨城県の昆虫, コウチュウ目: 88-196.

希少 コウチュウ目 ジョウカイボン科

キイロジョウカイ

Themus nisatoi M. Sato et K. Takahashi

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 b 生息地が局限

【形態】 体長15.8~20.4mm。上翅は黄褐色を呈し、前胸背は中央部が黒色で周辺部が黄色にふちどられている。

【分布】 今のところ本州だけから見つかっており、東京都、茨城県、栃木県、福島県で記録されているにすぎない。

【県内の分布、生息状況】 泉崎村の湿地1地点から記録されている。

【主要文献】

大桃定洋(1999)県南地方の甲虫分布資料(その7), ふくしまの虫, (18): 55-63.

希少 コウチュウ目 ツツヒラタムシ科

ツツヒラタムシ

Ancistria apicalis Reitter

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 体長5.0~7.2mm。扁平な細長い円筒形をしており、全体黒色を呈している。特異な体型から判別は容易である。

【分布】 ツツヒラタムシ科は熱帯に分布の中心を持っている仲間で、本種は本州、四国、九州、対馬に分布しており、本州からの記録は非常に少ない。

【県内の分布、生息状況】 久保田(1995)による金山町の記録が唯一のもので分布の北限となっている。金山町ではブナ枯枝から見つかった。

【主要文献】

久保田憲二(1995)ツツヒラタムシの福島県からの記録. 月刊むし, (298): 27-28.

希少 コウチュウ目 オオキノコムシ科

ウスモンソオオキノコ

Dacne akitaï Narukawa

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 体長2mm内外。体型は長楕円形をしており、体色は全体が暗赤褐色を呈していて、上翅前半部のみ明るい赤褐色となっている。

【分布】 今のところ分布が確認されているのは本州(三重県、京都府、福島県)だけである。

【県内の分布、生息状況】 阿武隈高地のいわき市と原町市の2ヶ所から記録されているが、いわき市ではウスヒラタケが腐った後、カラカラに乾いたもの下から見いだされた。

【特記事項】 1992年に三重県で得られた個体をもとに記載された種で、その後ほとんど記録されていない。

【主要文献】

久保田憲二(1999)福島県のオオキノコムシ. ふくしまの虫, (18): 37-46.